

学校における 食物アレルギーの対応

医療法人社団武光会つばきこどもクリニック

椿俊和

千葉県立松戸六実高等学校 **2015.10.13**

15:55～視聴覚室にて開催。

椿先生はこの研修のために83ページに及ぶ資料を用意してくださいました。

重症度	軽症 (下記の1つでもあてはまる)	中等症 (下記の1つでもあてはまる)	重症 (下記の1つでもあてはまる)
皮膚	<input type="checkbox"/> 部分的な赤み、ぼつぼつ <input type="checkbox"/> 軽いかゆみ <input type="checkbox"/> くちびる・まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 全身性の赤み、ぼつぼつ <input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ	
消化器	<input type="checkbox"/> □やのどのかゆみ・違和感 <input type="checkbox"/> 弱い腹痛 <input type="checkbox"/> 吐き気 <input type="checkbox"/> 嘔吐・下痢(1回)	<input type="checkbox"/> のどの痛み <input type="checkbox"/> 強い腹痛 <input type="checkbox"/> 嘔吐・下痢(2回)	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける
呼吸器	<input type="checkbox"/> 鼻水、くしゃみ	<input type="checkbox"/> 咳が出る(2回以上)	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸 <input type="checkbox"/> 息がしにくい
全身		<input type="checkbox"/> 顔色が悪い	<input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い <input type="checkbox"/> 脈を触れにくい・不規則 <input type="checkbox"/> 意識がもうろうとしている <input type="checkbox"/> ぐったりしている <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす
エピペン	<input type="checkbox"/> エピペンを準備	<input type="checkbox"/> 治療後も咳が続く・重症と迷うときはエピペンを使用	<input type="checkbox"/> すぐにエピペンを使用
薬	<input type="checkbox"/> 30分続けば薬を飲ませる	<input type="checkbox"/> 薬を飲ませる <input type="checkbox"/> 呼吸器の症状があれば気管支拡張薬を吸入する(処方がある場合)	
受診対応	<input type="checkbox"/> 5分ごとに症状を観察 <input type="checkbox"/> 1時間続けば医療機関を受診	<input type="checkbox"/> 5分ごとに症状を観察 <input type="checkbox"/> 医療機関を受診	<input type="checkbox"/> あおむけの姿勢にする <input type="checkbox"/> 救急車で医療機関を受診

アレルギー症状の重症度の見分け方や、エピペンを使用するタイミングについて学びました。

1 バイタルサインの確認

循環、気道、呼吸、意識状態、皮膚、体重を評価する。



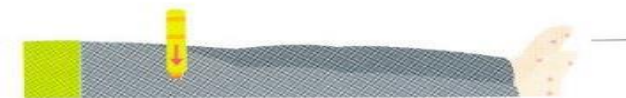
2 助けを呼ぶ

可能なら蘇生チーム（院内）または救急隊（地域）。



3 アドレナリンの筋肉注射

0.01mg/kg（最大量：成人0.5mg、小児0.3mg）、必要に応じて5～15分毎に再投与する。



4 患者を仰臥位にする

仰向けにして30cm程度足を高くする。
呼吸が苦しいときは少し上体を起こす。
嘔吐しているときは顔を横向きにする。
突然立ち上がったたり座ったりした場合、数秒で急変することがある。



5 酸素投与

必要な場合、フェイスマスクか経鼻エアウェイで高流量（6～8L/分）の酸素投与を行う。



6 静脈ルート確保

必要に応じて0.9%（等張/生理）食塩水を5～10分間に成人なら5～10ml/kg、小児なら10ml/kg投与する。



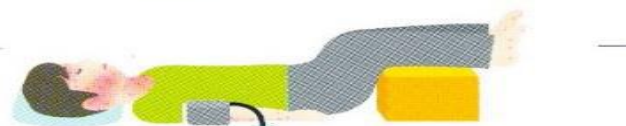
7 心肺蘇生

必要に応じて胸部圧迫法で心肺蘇生を行う。



8 バイタル測定

頻回かつ定期的に患者の血圧、脈拍、呼吸状態、酸素化を評価する。

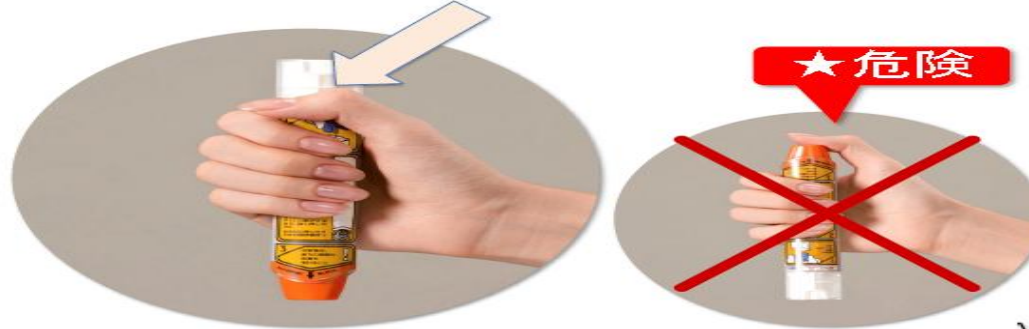


Simons FE, et al. WAO Journal 2011; 4: 13-37 を引用改変

アナフィラキシーの初期対応の重要性と対応の手順を学びました。

正しい持ち方

親指に注目



① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開けエピペン®を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを下に向け、利き手で持つ

“グー”で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップをはずす

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン®の先端（オレンジ色の部分）を軽くあて、“カチツ”と音がするまで強く押しあて、そのまま5つ数える

注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン®を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、マッサージする

椿先生から 40 本学校安全保健課から 20 本計 60 本のエピペントレーナーを借用し、参加者全員がエピペンの正しい使用方法を実習しました。

アナフィラキシーを引き起こすハチの種類

- スズメバチ類



オオスズメバチ



キロスズメバチ



クロスズメバチ

- アシナガバチ類



- ミツバチ類



事前に質問が多かったハチアレルギーについても詳しく教えていただきました。

平成27年度 アレルギー研修会（10月13日実施）アンケート

- ・大変勉強になった。論旨が明確で難しい箇所もよく理解できた。
- ・勉強になった。関心があることなので、アレルギー検査を受けようと思った。
- ・エピペンを打つタイミングの目安、アナフィラキシーの症状が出た時の取らせる体勢など、具体的な処置例を知ることができ、自信と責任感の向上につながった。AEDのように学校にエピペンが設置されるようになると良いと思う。
- ・エピペンの実物（テスト用）を試用することができ、身近に感じ、いざという時に役立つと思った。
- ・大変コンパクトにまとめてお話しいただき、理解が深まった。落ち着いて冷静に、かつ迅速に対応しなければならないことが理解できた。
- ・学校現場の意識をもっと高めないといけないと思った。
- ・細やかな情報を知ることができた。
- ・エピペンの基本的な打ち方は知っていたが、様々な注意点を把握しておらず、実践前に知ることができた。
- ・エピペンを現場で使うイメージ、蜂に対する生徒への対応のイメージがわいた。
- ・今後、我々の現場でロールプレイなどが必要である。
- ・いざという時に対応できるように復習が必要だ。
- ・症状が出た場合は、その場での判断とチームワークが大切だということが理解できた。
- ・自分自身の認識を深めるために良い講習だった。
- ・エピペンを万が一に備えて使える準備をしておくことが大切だと分かった。
- ・落ち着いて取り組むことが重要だと感じた。
- ・ためになる研修をありがとうございました。
- ・今はよくわかった気がするが、時間がたつと色々忘れそうなので、繰り返し椿先生のお話を聞きたい。
- ・とても良い研修だったが、時間が短くて残念だった。

事後アンケートも上記のように大変好評でした。